

令和7年度第2回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会 議事録

■開催日時 令和8年1月14日(水)  
午後1時30分～午後3時30分

■開催場所 伊賀市役所 5階 501会議室

■出席者 (敬称略)

【委員】

辻本 勝久(和歌山大学)  
上田 太一(西日本旅客鉄道株)、山本 恒平(近畿日本鉄道株)  
市川 覚(伊賀鉄道株)、川北 幸宏(三重交通株)  
江川 晃平(中部運輸局交通政策部交通企画課)  
森 慶之(中部運輸局三重運輸支局)  
野村 和之(伊賀警察署交通課)  
福本 善彦(名張警察署交通課 代理 稲垣 博)  
岡田 明(三重県地域連携・交通部交通政策課 代理 勝又 一樹)、  
沢西 芳円(三重県伊賀建設事務所 代理 尾市 知己)  
山本 いずみ(公募委員)、成底 正好(公募委員)  
福本 紀昭(伊賀市障害者福祉連盟)、  
西口 馨(島ヶ原地域まちづくり協議会)  
中矢 裕丈(伊賀市地域力創造部長)

【オブザーバー】

中部運輸局鉄道部計画課 吉村

【事務局】

地域力創造部 佃次長  
公共交通課 森地課長、中島主幹、中川係長、西條

■欠席者(敬称略)

【委員】前田 敦志(三重県タクシー協会)  
尾上 義文(三重交通労働組合)  
堀田 大(いが移動送迎連絡会)  
宮崎 寿(伊賀市副市長)

■傍聴人：2人

## ■会議概要

### 1. 開会

公共交通課 森地課長

#### 会長あいさつ

皆さんこんにちは。辻本でございます。今日は本当にお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。さてこの協議会で、これからみなさまにいろいろとご議論いただきます地域公共交通ですが、これは生活を支えるサービスであるとともに、地域経済の活性化や脱炭素、コンパクトなまちづくりの実現等々、さまざまなことに寄与するということで、持続可能な地域づくりの要と言えるような社会基盤であると考えています。そういった地域公共交通をよりよいものにしていくため、令和3年度から伊賀市地域公共交通計画を策定し、そのもとでさまざまな事業に、皆様のご協力のもと取り組んできています。今日はその令和7年度目標の達成状況に関する自己評価の案について、皆様にご審議いただきますとともに、協議事項が4件、報告が1件、その他、と盛り沢山予定しております。限られた時間ですが、活発なご参加をよろしくお願ひします。

### 2. 協議事項

- (1) 令和7年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について  
事務局から資料1に基づき説明。

#### 【質疑応答】

委員（中部運輸局）	説明のなかでも、資料の文字が読みづらいということがありました。運輸支局に提出される際には、資料の解像度を上げていただければと思います。 あと資料1-1、【D○】の部分。結果の考察及び今後の展望のところ、具体性がないことが気になりました。例えば「公共交通機関利用促進事業」で、「各企業・事業所の利用状況を把握しなおすとともに」とありますが、利用状況はすでに把握しているのか、これから把握するのか、どちらでしょうか。
事務局	以前事業所へ訪問し、従業員の公共交通の利用状況についてはすでに把握している状況です。
委員（中部運輸局）	わかりました。そうであれば、利用状況のところは別々にしっかり記載した方がよいと思います。公共交通の利用者、といっても属性がいろいろあると思います。企業や事業所の利用状況を把握されて、今後の利用につながりそうだという潜

	<p>在需要であるのか、はたまた、なかなか利用が難しく今後どう頑張っていこうかというところから考えていけないのか、いろいろ数字をみてわかることがあると思いますので、ぜひ利用状況のところは、数字でしっかり示していただいた方がよいとおもいました。</p> <p>あと、「公共交通通学定期券購入費助成事業」の、こちらも結果の考察及び今後の展望のところですが、利用の促進につながっていると記載いただいています、利用促進というからには、おそらく利用者数が伸びたということだと思えます。冒頭でも、バスの利用者数が増えたという説明があったかと思えます。こちらもどれだけ効果があったのか、どれだけ利用促進につながっているのか、ということを書きただけだと、伸び率がわかって、また今後、助成事業をどう進めていこうかという検討にもつながると思いますので、具体性を持たせて書いていただくべきかと思いました。</p>
事務局	<p>各事業所の利用状況は、伊賀市には外国の方が多く住んでおられるので、昨年度、外国人従業員が多い事業所で、通勤状況等の聴き取りを行いました。多くはありませんが、通勤に利用されている方もいると聞いていますので、数字等記載し、国へ報告したいと思えます。</p> <p>また通学定期券購入費助成が利用促進につながっているという点も、友生線の利用者が前年度15,720人に比べ、今年度は18,266人に増加していますので、この数字を記載したいと思えます。</p>

委員（市民公募）	<p>資料1-1の8ページにある、友生線と西山・島ヶ原線の達成率について。私は石垣島から移住してきたため、土地鑑がないなかで思うのですが、「地域住民の無関心層が一定存在する」との記載がありますが、おそらくそうではないと思えます。利用促進を周知徹底するなかで、役員会で議論されていることが、全体の地域住民に落とし込まれていないことが想定できると思えます。それが一番大きな課題なのではないかと感じています。そこをきちんと改善していただければ、今後利用状況も増えてくるのではないかと思います。</p> <p>あと9ページに「今後も運行の効率化を図りながら」とありますが、具体的にどのようにするのか、もう一步踏み込んだ内容の方が指標も取りやすいただろうし、またそれによってどのように改善されてきたか、地域住民にどのように周知され</p>
----------	--

	てきたかがよくわかると思います。
事務局	これは、市全域で実施しているアンケート等を根拠に作成しており、利用者に対して実施するアンケートと、市民全体への満足度調査にかなり乖離がある状況の中で、無関心層も一定数存在するのではないかと、ということで、記載させてもらっています。ご指摘のように、無関心ではなく周知が行き届いていないという点もあるかと思しますので、表記については少し修正したいと思います。
事務局	今後の運行の効率化については、昨年度は重複区間をなくして効率化をはかりましたが、なかなか利用者が増えていないという実態があります。慎重に考えながら、運行をどうすれば効率的にできるのか、特に島ヶ原地域ではデマンドの実証運行も行っているため、関連して地域の皆さんと、何が地域のニーズにあった路線なのかを考えながら、効率化を図りたいと考えているところです。 現時点ではまだ具体的な事業は定まっていますが、地域のみなさんとともに検討しながら進めたいと考えます。

委員（障害者福祉連盟）	高齢者のわたしにとって、字が見にくい資料があり、内容がしっかり把握できない。若い方にはわかるのかもしれないが、フォントをもう少し大きくしていただいたり、背景を考えていただくとかをお願いしたい。利用促進について今後参考にできるような話だと思うので。
-------------	---

委員（三重運輸支局）	資料1-2について、今年度、フィーダー系統と調査事業を活用しており、実際補助を受けているものについて評価を行っています。調査事業の方は、現在まだ中間案に向けて鋭意進行中というところですが、4ページ目の左側、事業の結果概要の部分で、これまでアンケート調査であったり、地域住民懇談会の開催等は進んでいるかと思しますので、例えば懇談会であれば何回開催したとか、いつ開催したとか、アンケート調査は何人に対して実施したとか、回収率とか、わかる範囲で、どういった結果であったかをもう少し具体的に書いていただくといいと思います。 あと資料1-1ですが、こちらには調査事業の記載がありませんので、資料1-2の内容を、修正を踏まえて、落とし込んでいただくようお願いします。 資料1-2は、補助を受けている事業の評価を記載いただく
------------	---

	<p>のですが、資料1-1については、伊賀市の計画全体の評価を記載いただきたい。例えば、8ページや9ページには友生線や西山・島ヶ原線、フィーダー補助系統について記載いただいておりますが、市内にはその他の行政バス、自家用有償運送といった路線もありますし、鉄道もあり、そちらの目標や取り組みもあると思いますので、その評価もこちらに加えていただけたらと思います。</p> <p>あと先ほど成底委員からもありましたが、9ページの計画目標の現在の到達点というところで、友生線について、既存路線の改善を目的に運行の効率化を図る、とありますが、この「運行の効率化」がどういった内容なのかを、もう少し具体的に記載いただくといいと思います。西山・島ヶ原線については、おそらく定時定路線とデマンドを組み合わせで効率化を図ったということだと思いますので、どんな効率化を図ったのか、具体的に記載していただきたいと思います。</p> <p>また、現在伊賀市では、サービス継続事業を行っていただいて、11ページの今年度の会議のなかで、サービス継続実施（案）について記載いただいております。2月に開催される第三者評価委員会に出席いただいた際、おそらく現在の進捗状況を質問されると思いますので、質問に答えられるよう、現在の状況等を整理いただくといいと思います。</p>
事務局	<p>事前にご指摘もいただいておりますが、資料1-2に記載している内容を1-1に落とし込んで提出させていただきます。効率化の取り組みについても、具体的に記載して提出したいと思います。</p> <p>西山・島ヶ原線については、昨年度実際に効率化を実施しています。友生線については、一部スクールバスと重複している部分があり、そのあたりで、何か効率化できないかを検討しているのですが、なかなか実現には至っていない状況です。そのあたりの経過を盛り込んで記載したいと思います。</p> <p>サービス継続事業については、阿波線と玉滝線、国から5年間補助金をいただいて運行している状況です。現状を整理して、第三者委員会に臨みたいと思います。</p>
会長	<p>多くのご意見やご指摘をいただきました。たくさん修正すべき点が出てきています。内容を具体的に書いた方がよい、数字を入れた方がいい、読みやすくすべき、など、多々ご意見いただきました。事務局で修正案をつくっていただき、しっ</p>

	かり修正して、その結果については、会長と事務局とに一任ということによいでしょうか。
--	---

【意見なし。了承】

(2) 行政サービス巡回車について

- ・「島ヶ原ぐるり号」の改編について  
事務局から資料2に基づき説明。

【質疑応答】

委員（中部運輸支局）	本日の出席者にタクシー事業者さんがおられないですが、タクシー事業者さん、並びにタクシー協会はご了解いただいている内容となりますか。
事務局	タクシー協会の前田委員にヒアリング等させていただき、島ヶ原内であれば問題ないであろうということで、承認いただいていると認識しております。
委員（中部運輸支局）	島ヶ原タクシーは車両1台ということですか。
事務局	そうです。軽自動車のタント1台です。シャトルバスは10人乗りハイエース。ですので、島ヶ原地域としては軽自動車とハイエースの2台体制で運行します。
委員（中部運輸支局）	かなり利便性が上がって使いやすくなるので、予約が重なってくると、1台だとパンクする可能性もあると思いますが、なかなかそういった想定はされていないのですか。
事務局	そうだったら非常にありがたいので、もしそのような状況になれば、台数を増やすことも考えたいと思います。今回は地域みなさんに受付等をお願いするので、予約が重複した場合も、地域の方ならではのマッチングをしていただける、ということも期待しています。できるだけ乗り合わせを促進しながら進めたいと考えています。
委員（中部運輸支局）	ロコミ等で利用者が増えていくことを期待しています。予算の問題があつてなかなか増車というのは難しいと思いますが、なかなか他ではドライバーがいないことで苦しんでいる状況があるなかで、ドライバーが現状6名もいらっしやっで、地域でしっかりやろうということの現れだと思えます。次の会議等でいい報告が聞けることを期待しています。

委員（市民公募）	いくつか質問させてください。 しまがはらタクシー（仮称）とシャトルバスの目標値は、過
----------	---

	去のデータから分析したなかでの数値ですか。
事務局	そうです。過去のデータ等から1日あたり利用者6人という数字を決めました。現在は、朝夕の定時定路線に必ず1名の利用がありますので、それでのべ2人。あと4名は、現状の実績から設定しました。
委員（市民公募）	<p>すごくよい事業であると思います。これは地元の方が運転手として想定されているのですよね。この事業は、今回は島ヶ原地域で実施されていますが、伊賀市は広範囲ですので、全体で予算の使い道とか考え方とかを考えていることが想定できます。だとすれば、もっと利用促進するような、アナログのオペレーターだけではなくて、ちょっと難しいかもしれませんがアプリなどを活用して、違う地域での活用方法を模索できるような体制がくれたらよいと思います。</p> <p>そうになると、交通空白地帯の考え方がちょっと弱いとっていて、私が住んでいる西之澤においても、具体的に言うと、実際バスはきているものの、バス停500メートル圏内であるものの、利用するに至らない状況が生まれてくる。利用ができない、時間帯が合わない、あったとしても、行きたい場所に行くのではなく、遠い伊賀上野駅に行かされたり、新堂駅の始発に乗りたいけど、9時出発にしか行けないので間に合わないとかですね、こういう交通空白地帯の考え方を、ここでしっかり考えた上で、この事業がさらにもっと発展できるような仕組みをまず検討していただけるほうがいいかと思うので、ご検討よろしく申し上げます。</p>

委員（市民公募）	<p>私も以前申し上げたとおり、4つの公共交通機関を利用して一時半の会議に間に合わない、午後の便がない、というところから来ていますので、この島ヶ原地域の先進的な取り組みは興味深く聞かせていただいています。何回も話し合いを重ね、地域が運転や受付をされるというのは、心強いことだと思います。</p> <p>そこで今後のことや、長続きするためにお聞きしたいのですが、私も福祉関係で、高齢者や交通弱者の方が利用するというので、先進地視察に行かせてもらった時に、運転手の立場が気になりました。たとえば私たちのまち協で行っている、ちょこっとお助け隊では、100円とか、ちょっとしたボランティアで、有償ボランティア的なことでお手伝いしているのですが、それ以外に、まち協はいろいろな事業がありま</p>
----------	---

	<p>す。その中で、加えてこの今後を見据えて、まち協さんが全面的に関わっているという点で、新たな役割の方の位置づけとか、全くのボランティアでは長続きしないという現状がありますので、そのあたりがどうなっているのかお聞きしたい、ということがひとつ。</p> <p>それから、さきほどの自己評価については、専門的に評価していただいているので、私一個人としては何も申し上げることはありませんが、こういう報告するにあたっては、数値目標もあると思います。利用人数を増やすためには、例えば、無料にするのは無理ですが、200円が高いというなかで、目標値を上げるために、もう少し下げるということは無理なのか。でも、この促進期間中に、例えば佐那具駅が駐車場無料であったから、知り合いに呼びかけましたが、無料でも不便だから利用しないという人がほとんどだった。私も実際、伊賀上野のほうがいいかなとか。少しの違いですが、伊賀上野から線が変わるということで、だからそういう無料だからとか安いから使うというより、この目標にあるように、利用しやすいから使いたくなる、とようなことがとても重要と思っていますので、利用者にとって利用しやすく、そうすると必然的に、ということで、ドア・ツー・ドアにしてくださっているということもわかりました。</p> <p>あと、このまち協が関わるといいなと思ったのが、以前お買い物バスのお世話をさせてもらった時に、指定したところにその人がいないということで、私は仕事をしているときだったが、手配した責任上、私に電話があった。だから地元の人で、ドア・ツー・ドアだったら、それは解消されると思ったので、そういう、いろいろなことを思いながら聞かせてもらっていました。</p> <p>あと一つ、この4ページにの実証運行経過のところ、始まった当時は、乗車体験会というのが続けて3回行われています。でも最近は行われていない。高齢者の方とか、私もですが、この紙を見ただけではちょっと要領得ないところがあるので、この乗車体験会というのは、またあるといいなと思いました。</p>
<p>委員（島ヶ原まち協）</p>	<p>いろいろご質問いただきありがとうございます。</p> <p>4月から新しい形式で、まち協が伊賀市から委託を受けるかたちで運営していきます。タクシーについては我々も初めてのことになりますので、トライ＆エラーで、来年1月からの</p>

	<p>本格運行に向けてトライアルというか、実証運行というかたちで、いろいろな問題点が出てくるとは思いますが、解決しながらやっていこう、というスタンスで臨みたいと思います。運転手の件ですが、伊賀市から提案を受けて、島ヶ原地域全員に、各戸配布で運転手を募集しますというチラシを配布しました。それで全員で6名の応募がありました。そのうち4名の方が有償運行の資格がありませんので、講習を受けたうえで運転をしていきます。3月までに準備をしたいと考えています。</p> <p>いかに利用してもらおうかということで、タクシー方式にすることによって、確かに利便性は圧倒的によくなるとは思っているのですが、やはり高齢者の方中心の利用になるかと思っています。利用促進のために、まず2月中旬以降に各地域をまわって、特に高齢者の方中心に説明をしたいと考えています。大きく変わりますということを理解してもらおうと思っています。それとタクシーは、地域内の移動に限定されるのですが、たとえば島ヶ原地域内には、島ヶ原温泉やぶっちゃという施設があります。そこで、しまがはらタクシーでぶっちゃに行った場合、割引券がもらえるとか、地域内の事業者へも協力もお願いすることも含めて、利用率を高めていきたいと考えています。</p>
--	---

<p>会長</p>	<p>島ヶ原地域内にとどまらず、市内全域の公共交通の改編の参考になりそうなご意見まで頂戴しました。ありがとうございました。今回いただいた意見は、今後の市内公共交通の再編にも活かしていただきたいと思いますので、よろしく願います。</p>
-----------	---

【承認】

- ・大山田行政サービス巡回車のルート及び時刻の変更について事務局から資料3に基づき説明。

【質疑応答】なし

【承認】

- (3) 伊賀市地域運行バス導入ガイドラインの改正について

事務局から資料4に基づき説明。

【質疑応答】

委員（市民公募）	<p>先ほどのおはなしでは、神戸地区の運営が厳しいという状況があるとお聞きしています。だとするならば、伊賀市においては、いろいろな地域の課題が全部、ある程度網羅されるようなガイドラインが望ましいかと思うのですが、このガイドラインの主旨を見ていると、基本的な交通空白地の定義はありますが、それ以外の、交通アクセスの問題だったり、そのあたりが具体的に記されていないので、そこは改善する余地があると思います。</p> <p>また、5ページの右側にあるのですが、伊賀市と近隣の名張市の比較しかない。交通不便解消を考える上では、小さなエリアのなかで判断すると、広がりがないのかなと懸念するので、もっと広く全国の事例を書くようにした上で、ガイドラインをしっかりと練ったほうが良いと思います。</p>
事務局	一つ目のご質問をもう一度伺えますか。
委員（市民公募）	<p>交通アクセスの不便や時間帯の不便、ということが、いろいろな地域で蔓延していることがあります。今回はたまたま補助金を利用したり、助成金を活用されますが、これがなくなった場合、大変な問題になると思います。ですので、そのあたりをある程度大きく考慮したうえで、定義はつくるべきだと思います。それと、具体的に実際の事例を考えるのであれば、もっと全国的な、視野を広げた範囲から、これが伊賀市らしいベストな方法だということを、盛り込んだ方が良かったので、言わせていただきました。</p>
事務局	定義の中に、距離だけとか、部分的なことしか盛り込んでいない、時間的なことも問題である、ということでしょうか。
委員（市民公募）	<p>AIに聞くと、交通空白というのは、この書かれている部分だけではない。伊賀市に当てはめた場合の書き方にしたほうが良いと思うのと、それを踏まえて、事例をしっかりと、どのようなものがベストなのか。場合によっては、今は神戸のお話ばかりしていますが、例えば島ヶ原の実証実験のやり方が、広範囲になってもいいのではないかと、地域間を乗り越えられるような仕組みを、このガイドラインに構想していった方が良くないかと思っています。</p>
事務局	現状の定義には、坂道が多くバス停まで行くことが困難であるなど道路環境等、といった記載でございます。時間でも空

	<p>白と考えることはできるかと思いますが、その表現ということですね。</p> <p>あと事例の記載については、全国的な事例も把握してはおりますが、ガイドラインには紙幅の関係で多く掲載することはできません。地域からご要望をいただきましたら、地域に向いてそのような事例をご紹介しますということもしております。</p>
会長	<p>ただ今の内容は、交通空白地の定義について、ですが、今日の段階ではこの提案の内容で改正し、成底委員からのご意見は、次の改正のタイミングに向けての要検討事項という整理とさせていただきますよろしいでしょうか。</p>

委員（三重運輸支局）	<p>用語を修正いただきたい部分があります。4ページの水色の部分で、国土交通大臣の登録となっているところの、自家用有償旅客運送の記載の下に、かっこで、市町村運営有償運送と、もうひとつ、公共交通空白地有償運送とありますが、道路運送法の改正によって「交通空白地有償運送」という用語となっていますので、改めていただきたいと思います。</p>
------------	---

会長	<p>ご意見がないようでしたら、先ほど森委員からご指摘いただいた部分は修正をお願いします。あと成底委員からご意見いただいた点については、次の改正に向けての要検討課題という整理をさせていただきます。</p>
----	--

【承認】

- (4) 令和8年度伊賀鉄道生活交通改善事業計画について  
事務局から資料5に基づき説明。

【質疑応答】なし

【承認】

3. 報告事項

- (1) 次期伊賀市地域公共交通計画策定の進捗状況について  
事務局から資料6に基づき説明。

【質疑応答】

委員（市民公	中間案協議のときに、地域のニーズをひろうと思うのです
--------	----------------------------

募)	が、地域部会の仕組みや具体的な方法を教えてください。
事務局	現時点では、パブリックコメントを募集する際に、当協議会の地域部会が、各支所単位でございますので、そちらで中間案を協議して、地域の意見を聞きたいと考えています。
委員（市民公募）	その地域部会の考え方ですが、たとえば私は西之澤ですが、西之澤でやるのですか。それとも全体の大きな壬生野協議会でやる、というようなことでしょうか。
事務局	いがまち地域部会であれば、壬生野地域、西柘植地域、柘植地域の各自治協議会会長、及び区長会の会長で構成される協議会になっています。
委員（市民公募）	<p>前回も前々回でも言いましたが、会長や副会長は、いろいろな案件を抱えすぎています。これだけの会議の中で把握して、説明や意見交換することはなかなか難しいかと思えます。それ以上に、地域に住んでいる方々は、現場で抱えている交通に対しての解決されていない課題が、毎年積み重なってきているので、それだけではやはり足りていない。不足していると思えます。</p> <p>パブリックコメントも、ネットに出しても市民の意見はなかなか拾いにくいと思えます。可能であれば、回覧板というかたちで、地域のニーズをいつまでに拾いたい、という広報を心掛けていただいて、それぞれの地域の課題に即した意見等をもっと出していただけないか、という要望です。</p>
事務局	<p>意見の集約の方法に対してご提案ありがとうございます。パブリックコメントについては、オンラインに限らず、紙ベースでの方法も合わせて実施したいと考えます。</p> <p>回覧については、現状なんとも申し上げることは難しいですが、パブリックコメントというものが、そもそも広く、皆様の目に届けて意見を集約する方法ですので、できるだけ知っていただけるよう周知方法を考えたいと思えます。地域部会については、構成員が定まっている組織になりますので、各委員の方が、多くの方の声を持ち寄っていただけるような開催方法を検討したいと思えます。</p>

委員（市民公募）	<p>広め方とか、みんなで考える方法について、いろいろ考えてくださって、ありがたいと感じています。ただ、私もこの会に入らせていただいて、これだけ本当に着実に進めていただいているのに、やっぱりなかなか行きわたらないので、いろいろな手立てを考えていただいていると思うんです。そのな</p>
----------	--

かで、今度は参画ということで、募集する。予算や手間がかかるから無理かもしれませんが、与えられて見るのではなく、応募する。それでみんながわかる、ということでもないですが、例えば、高校生とか発想も豊かだし、とても素敵なポスターができたり、そうするとその家族も公共機関見たりとか。あるいはまた、現実にJRの廃止路線候補に挙がっているというような暗い話が多いけれど、観光とかで活性化していこう、という明るい未来に向けてのキャッチコピーでもいい。人々に、ちょっと一緒に考えよう、と思えるような話題を提供して、自分の案を出してもらおう。伊賀鉄道も、サンタさんとか飲み会とか、スイーツとか拝見していますが、そういう案も、すでに市民から募集してくださっているかもしれませんが、もしかしたら、伊賀鉄道でこれをやってみたい、ということを考えている人がいて、そしたらまた口コミで広がったりすると思う。多方面から、せっかくこれだけ考えてくださっていることを、もっと市民にむけていけるように。私もここに入れてもらって、小さな動きですけど、ちょっとずつ間口を、一人が二人、二人が三人となるように動いています。いろいろな方のアイデアをいただけたらな、ということをお願いしたいと思います。

#### 4. その他

特になし

(終 了)